

# 「流域の恵み」を絶やさず享受し、災いをしたたかにやり

## 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会での議論

### 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会

設置期間 平成26年7月～平成28年6月 2年間

諮問事項 1) 琵琶湖・淀川流域における課題整理  
2) 流域対策のあり方、統合的流域管理の実現の可能性

研究会委員 石田 裕子 摂南大学 理工学部都市環境工学科 准教授  
角 哲也 京都大学防災研究所社会防災研究部門 教授  
多々納 裕一 京都大学防災研究所水資源環境研究センター 教授  
津野 洋 大阪産業大学人間環境学部 生活環境学科 教授  
中川 一 京都大学防災研究所流域災害研究センター 教授  
座長 中川 博次 京都大学名誉教授  
副座長 中村 正久 滋賀大学 環境総合研究センター 教授  
研究会顧問 嘉田 由紀子 びわこ成蹊スポーツ大学 学長, 前滋賀県知事



#### 検討経過

平成26年 8月14日 趣旨説明、研究会の進め方  
9月29日 流域の変遷・取組概要、平成25年台風18号洪水の概要  
10月27日 構成府県市の取組（治水・防災を中心に）  
平成27年 1月19日 主として、治水・防災に関する課題  
4月20日 主として、利水・水質に関する課題  
7月27日 主として、自然環境・流域文化に関する課題  
8月31日 相互関係、生態系サービスの評価（ゲストスピーカー 兵庫県立大学 三橋弘宗 講師）  
10月01日 全体課題、流域ガバナンス（ゲストスピーカー 同志社大学 新川達郎 教授）  
平成28年 1月29日 総合的な視点での課題解決 - 統合的流域管理の可能性  
拡大研究会 - 流域のこれからをみんなで考えるシンポジウム

### 琵琶湖・淀川流域における課題と解決の方向性について（たたき台）

#### 課題 琵琶湖・淀川流域において取り組むべき課題

##### 河川整備の着実な実施と総合治水・流域治水の推進

水系一貫の計画的な河川整備 地域特性に応じた流域対応 etc.

##### 利水システムの多重化

代替水源の確保 ネットワークの多重化 雨水・井戸水利用 etc.

##### 地下水の保全

地表水との一体的保全 法的枠組みの構築 etc.

##### 水インフラの老朽化対策

コスト削減 選択と集中 上下水一体管理・広域化・民営化 etc.

##### 流域生態系サービスの総合的な維持・向上

流域自給圏 農林水産業の活性化 グリーンインフラ 自然再生 漂着ごみ発生源対策 etc.

##### 総合土砂管理の推進

土砂法の区域指定 流木を考慮した河道計画 土砂の動的平衡 etc.

##### 水の危機管理の強化

新技術・情報の活用 連携強化 施設運用の改善 流域圏外との水融通 etc.

##### 流域文化の個性と繋がり再生

地域の個性と役割の再認識 地域資源を活かした経済活動の自立 etc.

（裏面につづく）

# 「流域の恵み」を絶やさず享受し、災いをしたたかにやり過ごす社会の実現に向けて

## 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会での議論

### 琵琶湖・淀川流域における課題と解決の方向性について（たたき台）

#### 方向性 地域の個性を活かす流域ガバナンスの実現

##### 統合的流域管理の必要性

- … 気候変動・人口減少で課題も変質。ひとつの自治体やセクターでは解決できない課題 – “はざまの問題” – が顕在化
- … 課題解決には、行政区画を越えた流域単位の視点、行政分野を横断した視点が必要

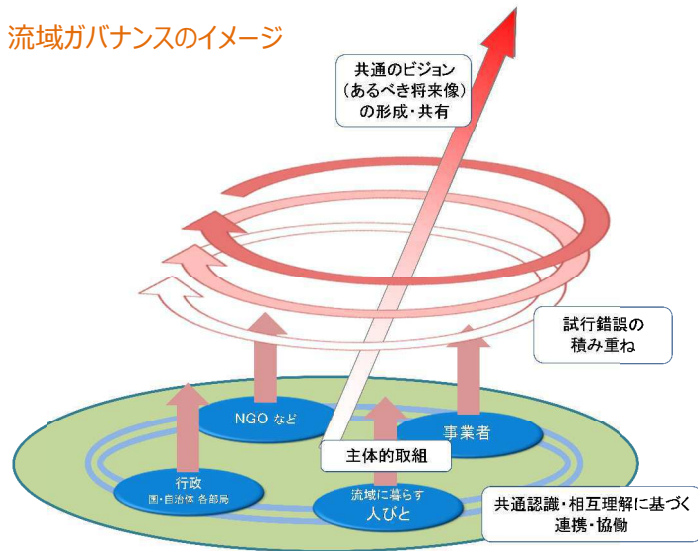
##### 流域管理の目的 – 健全な水循環の実現

- … 流域圏をひとつの単位として、生態系サービスの総合的な維持・向上を図りながら、水に起因するさまざまなリスクを軽減するとともに、持続可能な水利用を実現することによって、将来にわたって圏内住民ひとりひとりが享受する福利を最大化

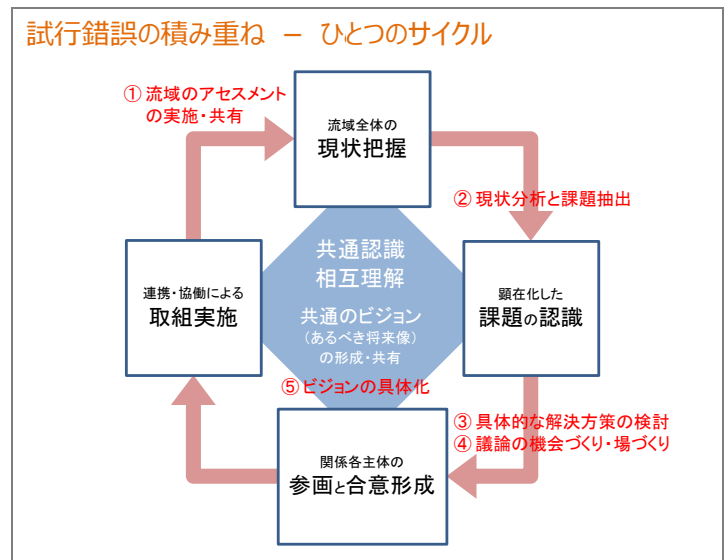
##### 望ましい流域管理のあり方 – 広域的・分野横断的な流域ガバナンス

- … 流域に暮らす人びと、N G O、民間事業者、市町村・府県・国の各部局といった流域各主体の連携・協働を基本
- … さまざまな課題に対して臨機応変に関係各主体が連携・協働し、試行錯誤を経ながら取組を積み重ねていく
- … 流域に暮らす人びとの意思を背景とした課題設定が連携・協働の動機 – 結果として政策の統合が進む

##### 流域ガバナンスのイメージ



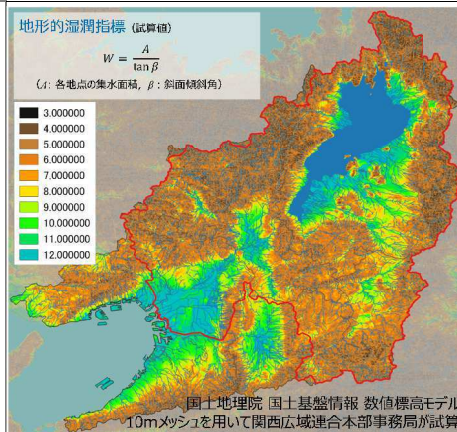
##### 試行錯誤の積み重ね – ひとつのサイクル



#### 流域ガバナンスの調整役（コーディネーター） – 信用・課題設定能力・技術力・調整能力

##### ①流域のアセスメントの実施・共有 – 共通のものさし

- … 公開データとシミュレーション技術を活用し、流域のさまざまな状態（リスクやサービス）について、流域全体を地先レベルで定量評価
- … 自治会・学区・市町村・府県・流域圏など任意の範囲で集計でき、さまざまな立場から比較衡量、取組効果の確認も可能。
- … 流域各主体、特に流域で暮らす人びとの共通認識・相互理解を醸成
- … 課題抽出の基礎資料として活用、便益の帰着構造の分析にも



##### ③具体的な解決方策の検討

- … 科学技術的な側面から解決可能か確認
- … 有効な手段のリストアップと構成により、実行可能で有効な方策を立案
- … 関係各主体（ステークホルダー）の関心を同時に満たす枠組みとプロセス

##### ④議論の機会づくり・場づくり

- … 関係各主体（ステークホルダー）による議論の機会づくり・場づくり
- … 透明性・柔軟性の高いプロセスで、創造的・建設的なコミュニケーションをお膳立て

##### ②現状分析と課題抽出

- … 流域管理の目的に資する課題を抽出 – 流域全体の福利向上
- … 流域全体を俯瞰しながら、暮らす人びとの立場から

##### ⑤共通のビジョン（あるべき将来像）の具体化

- … 逐次、流域全体で共有できる共通のビジョン（あるべき将来像）の具体化を試み、問いかけ、共通認識・相互理解をより醸成